

# 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和3年3月31日

法人名 社会福祉法人 白ゆり会	園名 キッズガーデン白ゆり
--------------------	------------------

全体平均 4.16

第2章第2節 乳児期の園児の保育	月齢レベルで、子どもの発達の様子を的確に把握するようにし、保護者との望ましい信頼関係のもとで保育を行うことができるよう情報共有に心がけた。子どもの小さな育ちも適切に評価し、成長の意欲をさらに高めるようにした。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子どもの内発性を大切にし、保育者との信頼関係をもとに、基本的な生活習慣の自立や自己肯定の気持ちをはぐくむ保育を行った。運動機能の発達、社会的な態度、言語コミュニケーション能力など、臨界期や発達の適時性を特に大切に考えた。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	(3歳児以上の児童の在籍なし)
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	保育計画をもとに、それぞれの子どもの日々の成長や成果を正確に記録し、子どもの実態→育ての目標→適切な支援と手立て→評価→次の目標といったサイクルを大切に。「日々の保育そのものの積み重ねこそが何よりも大切」という職員間の共通認識が深まった。
第3章 健康及び安全	管理栄養士を中心に、子どもの食の大切さと楽しさを体感できるような保育の場を構成した。また、安全管理マニュアルの活用や研修を行い、危機管理やリスクマネジメントに努めた。
第4章 子育ての支援	日々の保護者とのコミュニケーションについては、特に時間をかけていていないに行った。少しでも気になることがあれば、必ずその日のうちに園長に報告・相談し、関係機関にすばやく連携をはかった。一人一人の子どもを大切にする姿勢が徐々に保護者に伝わり、望ましい協力関係が築かれるようになった。
第5章 職員の資質向上	新型コロナウイルスリスクが高まる中で、多くの研修会参加の機会が失われた。園長が中心となって、最も適時性が高く、子どもの育てや保護者支援に直接生きるような研修内容を選び、日々の保育実践に直接に生きるような研修に努めた。
総合	当該年度は、感染症対策を最優先にしたため、計画していた行事のほとんどが中止となったり、リモートの動画配信となったりしてしまった。設立2年目の保育園であるが、保護者との信頼感は初年度と比べて深まり、それぞれの子どももさらに自分らしさをいかして、精一杯活動に取り組む姿が多くみられた。地域で採用した新しい保育士も、1年2年と実践を積み重ねることにより、育てやかかわりのポイントをつかみ、笑顔で生き生きとした表情で保育を行えるようになってきた。年度途中で保護者支援の必要なケースや発達に課題のある子の受け入れを行い、一定の役割を果たして次のステップに送り出すことができた。

**データ表**

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.20
「3歳未満児保育」	32	4.28
「3歳以上児保育」	49	4.00
「教育保育の配慮事項」	10	4.00
「健康・安全」	28	4.21
「子育ての支援」	16	4.38
「職員の資質向上」	7	4.14
計	157	4.16

**データグラフ**

